

# 平成17年度の主要な事業動向

## 1 個人利用の動向

入館者数は、17年度は651,008人で、一日平均で2,500人を割り込み2,429人となった。資料の個人貸出点数（図書、AV資料）も、397,810点で昨年に比べ1.7%とわずかだが減少している。

そうした中で、児童資料の貸出が、平成15年以来3年ぶりに増加に転じた。特に絵本・紙芝居の伸びが大きく、月によっては前年比で130%を超える月もあり、年間の貸出数は66,236冊で前年比109%になった。

一方、AV（視聴覚）資料の貸出点数は、過去3年間毎年1割程度ずつの伸びを示してきたが、17年度は前年比1%の微増にとどまった。

レファレンスの件数は、28,457件で、前年比4%の伸びであった。16年度末にレファレンスカウンターの強化、専用電話の設置、メールレファレンスの開始等のレファレンス充実策を図ったが、カウンターでのレファレンスは増加したものの、電話、メールでのレファレンスは横這いであった。

リクエストによる資料の提供（他館からの借受、購入による提供）が昨年に引き続き50%程度増加している。レファレンスがこのサービスに結びつくことも多く、レファレンスの強化の成果ともいえる。

新聞記事などのオンラインデータベースや最新の出版・所蔵情報など、インターネット上の情報を提供するため、2階から4階にインターネット端末を計8台設置している。18年3月より新たに中日新聞記事データベースを利用に供しているが、よく利用されている。インターネット端末の利用は1日平均45人で、16年度に比べ36%増えている。

## 2 協力貸出・相互貸借の動向

### (1) 協力貸出と県内図書館の相互貸借の動向

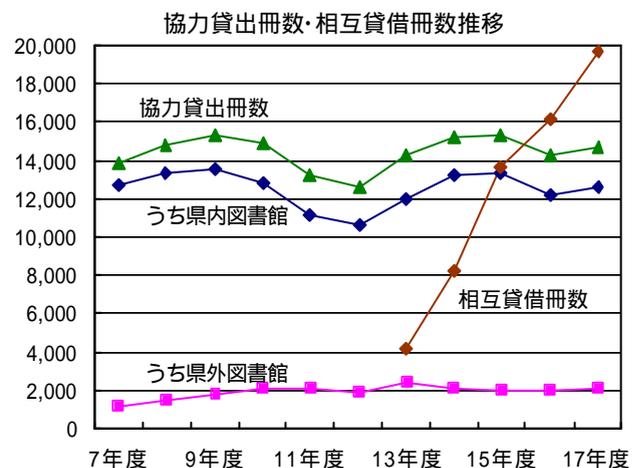
協力貸出は微増に留まった。増加の要因としては、平成17年度から開始した高校支援サービスの一環として行った高校図書館への協力貸出の強化が大きい。高校への貸出を除いた県内の市町村図書館及び公民館図書室への協力貸出は、昨年度の12,036冊から11,744冊と減少した。

一方、当館の搬送を利用した市町村図書館同士の相互貸借は、19,721冊（愛知県図書館の借受けを含む）と依然大幅な増加傾向を示している。これは、平成16年7月から三重県立図書館との定期便に愛知・三重両

県の市町村図書館の相互貸借資料の便乗を認めたこと、さらに平成17年度から岐阜県・富山県とも同様に相互貸借資料の便乗を認めたこと、が大きな要因である。この三県への愛知県内市町村図書館からの貸出冊数は、2,430冊に上り、相互貸借冊数全体の1割強を占めている。県内市町村図書館間の相互貸借冊数は、平成16年度の15,632冊から平成17年度17,291冊と増加しているものの、一時期のような爆発的な増加ではなくなりつつある。また、県内公立図書館横断検索「愛蔵くん」への参加館の増加に伴い、申込先の分散化が進んでいる。

### (2) 広域物流ネットワークの構築

平成17年6月16日、愛知・岐阜・三重の三県で「東海三県立図書館間の図書館資料相互貸借の推進に関する協定」が締結された。この協定は、三県立図書館間で運行している定期便に、協力貸出資料に加えて県域を越えて



行われる市町村図書館間の相互貸借資料の便乗を認めるものである。

具体的には、愛知県内図書館から岐阜・三重県内図書館への貸出しは、愛知県図書館で集積したうえで週2便の定期便で一括して岐阜・三重県立図書館に搬送し、岐阜・三重県内市町村図書館には岐阜・三重県立図書館で積替えたうえで、協力車・宅配便で配送することにした。岐阜・三重県内図書館からの愛知県内市町村図書館への貸出しも同様に行われる。物流ネットワークの構築は、東海北陸地区ブロックとして相互貸借実績の多い富山県と、平成17年4月15日に個別協定を締結することにより拡大した。協定の内容は、東海三県で結んだ内容と同様である。

### 3 図書の受入

平成17年度は、合計20,249冊の図書を受入れた。その内訳は、購入による受入が和書15,708冊、洋書179冊、計15,887冊。寄贈による受入が和書4,026冊、洋書222冊、計4,248冊。その他114冊であった。前年度と同額の予算の中、購入図書が5%ほど増加しているのは入札により購入価格が下がった結果である。

16年度のビジネス情報コーナーの立ち上げに続き、17年度は多文化サービスコーナーを立ち上げ、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語の図書の充実に努めた。

なお、18年度は資料費が1,000万円増額されることになった。この増額分については、今後のサービス基盤を形成するため特定分野（ビジネス 少子高齢化 多文化 地域文化）に重点的に予算配分した。

### 4 変わる図書館・新しいサービス

#### (1) 図書館サービス計画の作成

平成15年度にまとめた『愛知県図書館のあり方に関する報告書』では、サービス水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため、サービスについての適切な指標を選定し、数値目標を設定することを掲げた。

これに基づき、当館では初めて年度のサービス計画を作成し、その中でサービス指標を選定し、目指すべき数値目標を設定することとした。18年度のサービス計画では、特に重点をおくサービスとして、レファレンス、市町村図書館への支援、県域全体へのサービス、利用者層に応じたサービス等を上げ、それに対応する数値目標4項目を設定した。サービス計画本文は、本年報11pに掲出した。

#### (2) 来館者アンケートの実施

図書館評価の一環として、来館者アンケートを実施し、満足度調査をおこなった。

平成17年12月6日(火)及び11日(日)の2日間で、合計1,900枚アンケート票を配布し、1,067枚を回収した(回収率56.2%)。これだけ大規模な調査は当館初の試みであったが、『来館目的達成度』では78%が「達成できた」、『全般的満足度』では80%が「満足」または「どちらかといえば満足」、『愛知県図書館は仕事や豊かな生活づくりに役立っているか』では83%が「役立っている」と回答するなど、概ね高い満足度をいただいた。一方、重要度が高かった『本・雑誌の量や種類』『開館日・開館時間』の項目で満足度が比較的低い結果が出た。また自由記入欄に38%の方が何かしらご意見を書かれるなど、図書館に対する高い関心が表れた結果となった。

#### (3) 資料配置の変更とその完成

平成16年度に引き続き、17年度も大幅な資料の移動を行い、3階を人文科学、地域資料、4階を社会科学、自然科学、科学技術、国連資料のフロアとする、2年計画の資料配置の変更を完成させた。

17年度は、地域資料と6類の図書資料を除く、3,4階の全ての開架資料30万冊を超える移動となった。作業は18年の1月中旬から3月の整理休館期間にかけて行われた。

主な移動資料は以下のとおりである。3階の和洋の社会科学図書は4階に移動した。4階の国際部門の資料は、多文化サービス資料を除き、一般の洋書と一つにした(人文科学資料は3階に、社会科学、自然科学資料は4階)。図書館学資料は3階に移動し、多文化サービス資料は3階に新たにコーナーを設置した。また、特許公開広報(平

1 - 平5)、ケミカルアブストラクツ、外国規格は書庫へ移動した。この結果、3階では、人文科学系資料のスペースを大幅に増やすことになり、4階ではビジネス情報コーナーと社会科学関係資料、科学技術関係資料を一体的に運用することが可能になった。

#### (4) 多文化サービスコーナーの設置

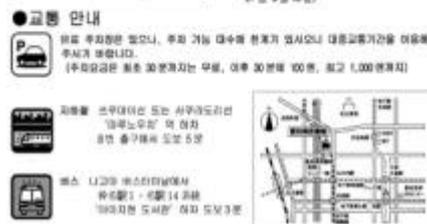
愛知県図書館では開館当時から国際資料部門(4階)を置き、外国語(主に英語)で書かれた各国研究資料、日本研究資料を配架してきた。しかし、平成18年3月の資料移動の一環として、国際部門資料と一般洋書を一つにすることとした。これを機に、国際資料部門に置かれていた、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語の資料と児童図書室に置いている4ヶ国語の絵本をまとめ、3階ティーンズコーナーの東の比較的アクセスしやすい場所に多文化サービスコーナーを設置し、3月17日から運用を開始した。

また、このコーナーを知っていただくため、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語の広報チラシを作成し、HP上にも同じ案内を掲載した。

同コーナーの17年度末現在の資料点数は、中国語1,440冊、韓国・朝鮮語190冊、ポルトガル語180冊、その他100冊、計1,910冊と週刊新聞2点である。



■책을 빌려갈 때			■개관 시간	
대인(외국)어, 국어, 동양, 동화, 육필, 인공어 등 거주하는 국가의 언어권 4개 언어권	국립인문학도서관, 문학, 연극, 동화, 청소년, 문학, 수, 있는 경우, 그리고 외국어(2~4층) 등 다양한 언어권(2~4층)을 제공합니다.	국립인문학도서관, 문학, 연극, 동화, 청소년, 문학, 수, 있는 경우, 그리고 외국어(2~4층) 등 다양한 언어권(2~4층)을 제공합니다.	월요일 10:00-20:00 (연말: 도서관은 10:00-18:00)	토, 일 10:00-18:00
대인(외국)어, 국어, 동양, 동화, 육필, 인공어 등 거주하는 국가의 언어권 4개 언어권	국립인문학도서관, 문학, 연극, 동화, 청소년, 문학, 수, 있는 경우, 그리고 외국어(2~4층) 등 다양한 언어권(2~4층)을 제공합니다.	국립인문학도서관, 문학, 연극, 동화, 청소년, 문학, 수, 있는 경우, 그리고 외국어(2~4층) 등 다양한 언어권(2~4층)을 제공합니다.	월요일 10:00-20:00 (연말: 도서관은 10:00-18:00)	토, 일 10:00-18:00
대인(외국)어, 국어, 동양, 동화, 육필, 인공어 등 거주하는 국가의 언어권 4개 언어권	국립인문학도서관, 문학, 연극, 동화, 청소년, 문학, 수, 있는 경우, 그리고 외국어(2~4층) 등 다양한 언어권(2~4층)을 제공합니다.	국립인문학도서관, 문학, 연극, 동화, 청소년, 문학, 수, 있는 경우, 그리고 외국어(2~4층) 등 다양한 언어권(2~4층)을 제공합니다.	월요일 10:00-20:00 (연말: 도서관은 10:00-18:00)	토, 일 10:00-18:00



#### (5) 비즈니스情報コーナーの状況

ビジネス情報コーナー開設から1年が経過した。会社情報や資格取得情報が一箇所に集約されたことはおおむね利用者には好評である。また、「職業・資格の本300冊」などの展示や、新着図書を紹介した「ビジネス資料ガイド」(平成17年6月より毎月発行)を発行し、コーナー以外の資料からのビジネス支援サービスも展開している。18年3月にコーナーを拡大し、仕事力向上に役立つ本500冊やミニ展示コーナーを増設した。

#### (6) ティーンズコーナーの状況

ティーンズコーナーも同じく設置してから1年が経過した。設置以前に比べ、かなり活発に資料が利用されるようになったことから、平成18年3月よりコーナーを約1.5倍に拡充し、フィクションだけでなく、ノンフィクションの資料の充実をはかった。

#### (7) DVDビデオの貸出開始

18年3月22日から、かねて利用者から希望の多かったDVDビデオの館外貸出を開始した。すでに、市場販売においては映像資料の主役であったビデオテープからDVDへのシフトが顕著であり、送付されてくる寄贈資料の大半がDVDとなっている現状もあり、担当としてはその対応に迫られていた。当初の貸出にむけて180点を用意したが、利用希望が殺到しており好調なスタートを切ることができた。

#### (8) 館報のリニューアルについて

図書館開館の平成3年以来刊行してきた図書館報「年魚市(アユチ)」をリニューアルし、新誌名を「あゆち」としてスタートさせた。

「年魚市」は、県内の市町村図書館関係者を主要な読者対象に、年1回(平成9年度までは2回)1,000部を発行、県内外の図書館、関係機関に配布していた。この館報は、直接県民に配布するものではないため、広報媒体としての力には欠けるものであった。そこで、愛知県図書館の様々なサービスを広く県民にアピールするための広報手段として、新たな形で館報を発行することになったものである。

新館報は、誌名を「あゆち」に改め、A3二つ折りで年2回各1万部を発行し、市町村立図書館等を介して、広く県内に配布した。

#### (9) 高校支援サービス

平成16年度に愛知県学校図書館研究会(県SLA)との協議を経て、平成17年度から連携協力事業を積極的に行うことになった。具体的な内容は、愛知県図書館蔵書の協力貸出、展示目的での2階ロビーの提供、県内公立図書館の催事情報や研修講師の紹介及び業務マニュアルの提供などの情報提供、県図書館からの研修講師の派遣、高校生対象の図書館ツアーなどを実施した。平成17年度の実績は、協力貸出が延べ13校に617冊、貸出のための資料調査59件、講師の派遣3回、図書館ツアー申込み3回となっている。

#### (10) レファレンス推進委員会の取組み

当館の中核的サービスであるレファレンス・サービスを推進する目的で、9月にレファレンス推進委員会を立ち上げた。17年度は、主にレファレンス記録の共有化とその運用の問題に取り組んだ。また館内レファレンス研修の内容検討や、レファレンス事例の国立国会図書館レファレンス協同データベース及び当館ホームページへの掲載をおこなった。

#### (11) 駐車場有料化

17年7月1日(金)から、混雑を緩和し、より多くの利用者に円滑に利用していただけるよう、駐車場を有料化した。料金は、最初の30分は無料、以降30分ごとに100円、5時間超は一律1,000円とした。ただし、身体に障害がある方の利用する車両については無料とした。有料化実施前の駐車場は、常時満車となっており、駐車待ちの車が国道に並び、国道に違法駐車する車もあり交通の障害となっていた。また、身体障害者や高齢者等、車でしか来館できない方が円滑に利用できない環境であった。有料化後は、車の流れも順調で、利用者の多い日でも比較的短時間の待ち時間で駐車場に入れるようになっている。

#### (12) 複写料金の10円化

利用者からの要望の高かった、複写料金(モノクロ複写)の値下げを平成18年3月17日から行った。愛知県図書館の複写サービスは、モノクロ複写、カラー複写、マイクロフィルムからの複写、CD-ROM等からの複写をまとめてコピー業者が機器を設置して行ってきた。コピー業者は、多数の複写機器の管理や複写の補助業務のため職員を常駐させており、このためモノクロ複写が20円と、他の図書館の複写に比べ高めの料金になっていたものである。今回、職員常駐の取り止め、複写機器の台数の削減、業者の変更等を行い、モノクロ複写料金を10円に値下げした。なお、カラー複写等他の種類の料金設定については従前のとおりである。

### 5 図書館協議会の図書館専門委員会への改組及び委員の公募

愛知県図書館では、平成4年3月以来、館外の有識者・学識経験者等からなる愛知県図書館協議会を開催してきた。平成17年2月に愛知県では「あいち行革大綱2005」を策定し、審議会等についても運営の見直しを図ることとした。愛知芸術文化センターにおいても付属の会議のあり方等の見直しをすすめ、愛知県図書館協議会も平成18年4月より愛知芸術文化センター運営会議の一つの専門委員会(「図書館専門委員会」)へと改組再編されることとなった。

今回の改組再編を機に、図書館専門委員会に一般県民の方の意見を反映させるべく、2名の委員を一般公募することとなり、平成18年1月に一般公募を行った。17名の方の応募があり、作文・書類審査の一次選考を経て、3月下旬に二次選考(面接)を行い、2名の公募委員を選出した。4月1日からは、県民の方からの一般公募による委員を加え、新たなる体制で図書館専門委員会がスタートすることとなった。

### 6 ホームページと横断検索